

横田英史の 書籍紹介コーナー



FACTFULNESS(ファクトフルネス) ～10の思い込みを乗り越え、データを 基に世界を正しく見る習慣～

ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、
アンナ・ロスリング・ロンランド
上杉周作・訳、関美和・訳
日経BP社 1,944円(税込)

ビル・ゲイツが絶賛したといわれる書。「世界は戦争、暴力、自然災害、人災、腐敗が絶えず、どんどん物騒になっている。金持ちはより一層金持ちになり、貧乏人はより一層貧乏になり、貧困は増え続ける一方である。何もしなければ天然資源ももうすぐ尽きる」。我々が常識だと思いこんでいるこうした勘違いを、データに基づき次々と論破する。知識人と呼ばれる人間も勘違いを免れない。世の中を正しく見るための勘所を的確に押さえており、お薦めである。

筆者は貧困、人口、教育、エネルギーに関する勘違いを体系的に論じており読ませる。いわゆる通説の誤りを指摘する書籍を読んだことはあるが、ここまで体系だっているのは初めて。ほとんどの人は、実際よりも世界は怖く、残酷だと考えている。勘違いを生むのは、判断本能、ネガティブ本能など10の本能である。

アナログの逆襲 ～「ポストデジタル経済」へ、ビジネスや発想はこう変わる～

デイビッド・サックス、加藤万里子・訳
インターシフト 2,268円(税込)

タイトルを見ると「デジタルの先はアナログ」とも読めるが、内容は「アナログ

にはデジタルにない良さがある」「アナログを極めるところに生き残る余地が十分にある」「アナログとデジタルは両立する」といったところ。名著「グレイフル・デッドにマーケティングを学ぶ」など類書が存在する内容だが、事例を数多く取り上げているところは評価できる。

出版、小売り、製造、教育のすべての面で、デジタル一辺倒の弊害とアナログの長所を論じる。アナログな発想がもつ革新的かつ破壊的な可能性を説く。事例はレコード/ターンテーブル、モレスキン、フィルム、ボードゲーム、腕時計、印刷、書店など。行き過ぎたデジタル化を再考し、アナログの見直しが進んでいるのは間違いないところだろう。筆者の主張はいずれも説得力をもって迫ってくる。

NEVER LOST AGAIN ～グーグルマップ誕生(世界を変えた地図)～

ビル・キルデイ、大熊希美・訳
TAC出版 1,944円(税込)

スマホの必須アプリとなり、存在しない生活が考えられないグーグルマップ(およびグーグルアース)の誕生物語。米テキサス大学の同級生が二人三脚でデジタル地図サービスを、グーグルマップとグーグルアースに仕立て上げ、インゲレスやポケモンGOの大成功につなげるまでを描いた書。開発の主役はエンジニアのジョン・ハンケ。ハンケが立ち上げた米キーホールは倒産の危機に瀕するが、米軍のイラク進行時にCNNが利用したことで一挙にブレイク

し、米グーグルに買収される。

グーグルマップなどの開発に米SGIから輩出された人材がかかわっているなど、シリコンバレーの人材や企業が核分裂を起こしながら成長していくエコシステムがよく分かる。グーグルマップの名称変更や、マーケティングよりもプロダクトというGoogleの社風などエピソードが満載だ。

フェイクニュースを科学する ～拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ～

笹原和俊
化学同人 1,620円(税込)

フェイクニュースはどのように生まれ、どういった過程を経て拡散するのかを、社会科学だけではなく、学際的な計算社会学(コンピュータが可能にする人間行動と社会的相互作用に関する学問)を用いて分析した書。情報を信じてしまう人間の認知特性、その情報を拡散させる情報環境の特徴、情報過多と注意力の限界など、フェイクニュースを「情報生態系」の問題としてとらえ、生態系の全体像を描く。筆者はメディアリテラシーとファクトチェックは、どちらもフェイクニュース時代を生き残るための基本だと語る。メディアリテラシーを高めるために読んで損はない。

偽ニュースは速く遠くまで、深く幅広く拡散する。特に怒りや道徳に結びついた感情の情報は感染力が強い。道徳感情語が一つ増えるごとに、リツイートされる確率が20%増加するという。

横田 英史 (yokota@nikkeibp.co.jp)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現ITPro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。
2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。2018年3月退任。
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、2018年11月ETラボ代表、現在に至る。
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する企業の見解とは関係がありません。

